

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	NPO法人ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホーム えがおの家 ほの家		
所在地	勇払郡厚真町京町34-1		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600210-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほの家開設2年半が過ぎ、利用者様 職員ともに落ち着いた生活が出来ていると思います。様々な取り組みの中、利用者様ご家族様職員が共に生活するという場が確立されつつあり、ゆっくりとした時間の流れの中、笑顔あふれる笑い声の響くホームをめざし、努力して参りました。毎年恒例になった、とうきび狩りやハスカップ狩り、花見 紅葉見学 ピクニックなど外出行事も変わらず行っており、今年もJRの旅を実施し、普段なかなか出来ない経験を利用者様と一緒に楽しんでいます。職員一人一人が介護の専門職として自覚と責任感を強く持ち、ケアの質向上のため資格取得や研修参加も積極的に行い、個々のレベルアップのため日々努力しています。「笑顔でのんびり自分らしく」の基本理念のもとにぬくもりあるホーム作りを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ターミナルケアの実践>
 契約時に「重度化・看取り指針」の説明を行い、本人・家族等の意向や要望を話し合いながら事業所でできることを十分に説明し、医師及び看護師と連携しながらチームで支援に取り組み、ターミナルケアを実践している。また、定期的な内部研修会の開催等で支援の方法を職員間で共有できるように取り組んでいる。
<役割、楽しみごとへの支援>
 一人ひとりの生活歴や力を活かしながら職員と一緒に調理や盛り付け、漬物漬けなど行っている。また、毎年列車での旅行やハスカップ狩り、回転寿司やレストランでの外食など楽しみごとへの支援もしている。また、中学生の福祉体験学習や実習生の受け入れで認知症への理解や啓発の機会を設けている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果			
	↓該当するものに○印			
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目: 23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18、38)	○	1 毎日ある	2 数日に1回程度ある	3 たまにある
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1 ほぼ全ての利用者が	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と	2 家族の2/3くらい	3 家族の1/3くらい
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2、20)	○	1 ほぼ毎日のように	2 数日に1回程度	3 たまに
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1 大いに増えている	2 少しずつ増えている	3 あまり増えていない
66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が	2 職員の2/3くらい	3 職員の1/3くらい
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が	2 利用者の2/3くらい	3 利用者の1/3くらい
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が	2 家族等の2/3くらい	3 家族等の1/3くらい

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「えがおでのんびり自分らしく」を理念に、会議や業務の中で話し合い、意識して実践につなげていけるよう職員間で話し合っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を掲げ、全体会議やケア会議で達成度を評価して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の祭や行事ごとには積極的に参加し、外出の機会を多くすることで、普段合えない方達と関わりを持てるように支援し、地域の方もホームに気軽に立ち寄りてもらえるような関わりを心がけている。	開設当初より地域との交流は盛んに行われ、夏祭り等の行事の際には地域の人々に参加を呼びかけるポスターの掲示やボランティアの協力の呼びかけ、中学生の福祉体験学習や実習生の受け入れなど日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護お気軽相談窓口の設置、茶話処カタローネの一般開放、中学生の福祉体験学習の受入、その他の実習生の受入などを積極的に行い、日々の実践を地域の方に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み、活動内容を報告し意見交換や質疑応答を行う中から、援助の仕方の工夫や新しい取り組みを行っている。会議の中でのどつまりについての質問が出た際に嚙下体操の意見をいただき、現在食事前の体操を継続している。	運営推進会議を定期的に開催して、事業所の取り組み状況や支援の方法などの具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議や認定調査の際に実情や取り組みなどを伝え、町主催の研修に参加したり、ホーム内部の研修に参加頂くなど協力体制を築いている。	町担当者とは、日常的に情報交換や連絡を取りながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外部の研修等で勉強の機会をもち、ケア会議で話し合う機会もある。今後もすべての職員が正しく理解できるよう、定期的な研修を続けていきたい。夜間は防犯上玄関施錠を行っているが、朝6時から20時までには自由に入出りできる環境に努めている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会開催や外部研修会参加で指定基準における具体的な禁止の対象となる行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部の研修、ケア会議等で学ぶ機会があり、自分の言動や態度を常に振り返り、不適切なケアにならないよう指導している。職員間でもお互いに話し合える関係作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に学んでいる職員はいるが、現在の所必要性のある利用者様の実例が無く、日常的に学ぶ機会は少ない。今後の課題としていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や入居時に十分に説明を行っている。料金などの改定の際は、書面での説明の他、家族様に集まって頂き、説明する時間を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様に参加頂き、意見交換の場がある。面会時などでもご意見や相談が有れば会議等で検討し、早急な改善や改正をし運営に反映させている。	「苦情・相談窓口」を見やすい場所に掲示をして、意見や苦情等を言い表せる機会を設けている。また、来訪時には気軽に意向や苦情等を話し合い、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見や提案を聞く機会がある。また、業務報告の中でも意見を聞き、はたらくやすい職場や相談しやすい関係作りを心がけている。	職員の離職率は低く、チームケアに取り組んでいる姿が伺える。また、全体会議やユニット毎の会議を定期的実施し、職員の意見や要望等を聞く機会を設けて、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与のベースアップや資格取得のための助成金制度、家庭状況に合わせた柔軟な勤務体系、母子家庭子育て支援、住宅手当の支給など、職員が安心して働ける環境・条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の能力、経験年数にあわせて年間外部研修計画をつくり、研修を受ける機会を多く持っている。内部研修講師制度は現在も継続しており、意識・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町内、近隣のGHの祭や行事に参加したり、交流会を開き、利用者を含めた交流の機会を多く持つように努め、意見交換を行いサービス向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅を事前面接に訪問し、本人のいままでの生活状況を確認し、環境や日課を大きく変化させないよう努めている。本人と家族様よりお話を伺い、入居にあたり不安を少なくできるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、入居契約時に要望を伺い、入居後の面会時などには、暮らしぶりや体調を伝え、安心頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族から要望を伺い、本人の体調や生活歴を分析し、本人の思いに寄り添って、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を継続できるよう様々な場面で役割を持ってもらうようにしている。掃除や買い物も無理強いすることなく、一緒に出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の行事にも参加頂き、利用者様と過ごす時間を大切にしている。面会時には一緒に食事やおやつを食べていって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の行事に積極的に参加し、知人友人に会える機会を作っている。美容室などは馴染みの所に行けるよう支援している。	町の中心街に位置し、地元のお祭り等の行事参加や買い物、友人・知人の来訪支援等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持って生活できる環境作りや場面を多くして、職員も含め一緒に過ごす時間を大切にしている。外出時には独歩可能な利用者様に車イスを押して頂き、互いに支え合いながら生活できる場面を多くしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院先や施設に面会に行くなどして、本人やご家族様の思いを聞いたり不安を軽減出来るよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉を大切に、日々の暮らしの中から思いや意向を把握するように努めている。意思疎通困難時は本人の立場になって考えるよう努力している。	アセスメントの実施や日々のかかわりの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りを中心に、居宅ケアマネやデイサービス・ヘルパー職員等にも情報収集しながら、今までの生活ぶりを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり合いの中から現状を把握し、記録におとして、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の思いを基に、ケア会議等で話し合い、本人が生き生きと生活できる目標を設定し、支援している。	家族等と話し合い、意向や要望を採り入れてケア会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動や行動を個別記録に記載し、会議の中のケース検討や毎日の申し送りの中で話し合い、情報共有しながら、小さな気づきをたくさん持って、日々のケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時の状況に合わせ新しいニーズにも、臨機応変 柔軟な対応をしている。希望があれば、ご自宅への帰省や冠婚葬祭の外出支援を行う体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に積極的に参加したり、ご友人・ボランティアの方に気軽に訪問頂き、たのしく過ごし交流を図れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に添った医療機関への受診支援を継続している。日頃より医療機関と密な関係が築けているため、昼夜問わず緊急時の往診や休診日の連絡体制が整っている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、通院への支援や日常の健康管理、医療機関との連携で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回の看護師訪問を継続。日々の心身状況・体調変化を報告、相談できている。24時間オンコール体制、緊急時以外の看護師連絡ノートも継続されており、適切な受診や看護を受けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、情報提供を行い、入院中も病棟看護師と情報交換を行い、相談員の方は退院に向けての現状報告を頂き、受け入れ態勢の有無、退院時期などを相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時の「重度化・看取り指針」の説明の継続。昨年の看取りの経験を生かし、今後も定期的な勉強会やチームで取り組んでいく意識づけ、支援方法を考えていきたい。	契約時に「重度化・看取り指針」の説明を行い、本人・家族等の意向や要望を話し合いながら事業所ですることを十分に説明し、医師及び看護師と連携しながらチームで支援に取り組み、ターミナルケアを実践している。また、定期的な看取りの内部研修会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を頂き、応急手当・AED使用方法の研修会を開いている。その他、会議等で急変時の対応方法を話し合う機会がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全員参加の避難訓練の実施継続。誘導方法、連絡体制を確認している。隣人に緊急時の応援、避難場所の提供を現在も継続してお願いしている。	消防署の協力を得て火災避難訓練を実施し、隣人との緊急時の応援、避難場所の提供、連携をしている。また、避難誘導方法や緊急時の連絡体制の整備、AEDの使用方法等の対応・訓練をしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念を常に念頭に置き、職員同士が会議や申し送り、日々の業務の中で話し合う機会を多く持ち、人格・尊厳を損なわない声かけを常に意識して行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにケア会議等で振り返りながら職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を出しやすい関わりを心がけている。食べ物・飲み物・服選びなどを本人が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々の体調や気分配慮しながら、入浴時間や食事場所など本人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪や髭剃り等の身だしなみには常に気をつけ、外出時や行事などでは化粧をしたりよそ行きの服に着替え、その人に合ったおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・片づけは現在も一緒に行い、それぞれの日課・役割として定着している。食べたいものの希望を聞き、一緒に買い物に出かけ選んで頂いたり、つけものや煮物、イクラ漬けなどを利用者様とともに手作りをしている。	職員と一緒に漬物漬けやイクラ漬けをしたり、買い物に出かけて食材を購入して調理をしている。また、自家野菜の収穫や回転寿司、レストランでの外食など楽しみごとへの支援もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減に注意し食事量の調整を行っている。食事、水分量は都度、記録記載し一日のトータルを全員が把握できている。水分は一日1500ccを目標とし、時間に関係なくこまめに水分補給できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時 就寝時行っている。自分で出来る方でも最後は職員の手直しを行い、支援している。年に二回の歯科検診を全員うけ、歯科医師より指導頂いている。今年は保健所の研修をホームで開催予定			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力、排泄パターンを把握、分析し布パンツへの移行や場面に応じたパットの使用方法を検討、実施している。おむつ使用の方でも可能な限り、トイレやトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンの把握で、Rパンやパットの検討を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう食事内容を考え、食物繊維の多い物、バランスのとれた食事提供、水分、乳製品を取り入れている。運動の声かけ、サイクル運動の継続を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	行事が無い限りは、毎日午前午後ともに入浴できる体制を継続している。本人の体調や気分を見極め無理することなく入浴できている。ユニット間の連携を図り、リフト浴や同姓介助の支援も継続できている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて毎日午前・午後と入浴出来るため、本人の希望に合わせて柔軟に入浴支援をしている。また、無理強いすることなく清潔が保てるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に限らず、休息できる場所の環境を整えている。冬場は乾燥するため、各居室に加湿器を設置し、室温・湿度の調整をおこない、インフルエンザ予防としている。寝具の清潔にも気を配り、気持ちよく眠る支援を継続している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、受診後は最新の物をつづって薬剤情報がわかるようになっている。誤薬を防ぐため、内服時の声だし読み上げを徹底している。薬変更時は様子観察を強化し、体調の変化に早期に気づけるよう注意している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握した上で出来ることを一緒に 行い、洗い物や茶碗拭き、掃除機がけなど本人 の日課として役割分担が出来ている。飲酒 などの希望があれば対応可能である。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年恒例となった、とうきび・ハスカップ狩りを 始め、JRの旅 外食と外出の機会が多い。花 見や紅葉見学、ピクニックも場所や趣向を変 えて実施している。個別のニーズに合わせ冠 婚葬祭の外出支援も行っている。	職員と一緒に買い物に出かけたり、地域の行 事に参加するなど戸外に出かけられるよう支 援している。また、毎年列車での旅行やハス カップ狩り、回転寿しやレストランでの外食など 普段は行けないような場所でも、出かけられる ように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っている方は希望に応じて買 い物同行し自由に買い物が出る。 所持していない方についても、ご家族同意の 下、預かり金の中から買い物することは可能で ある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話をかけることが出来る。 年賀状は毎年家族宛に全員書いて頂いてい る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り物を利用者様と制作し、リビ ングや玄関を飾り付けている。 プラズマイオン・加湿器・空気清浄機を設置し、 快適にすごしていただく努力をしている。 ご家族様からお花を頂いたり、町民の方からか ざりかぼちゃの贈呈があり、ホームを彩ってい る。	共用空間には、加湿器や空気清浄機等が配置 されて感染症予防対策が採られていたり、季節 毎の飾りや行事の写真が掲示されるなど季節 感や生活感を採り入れて、居心地良く過ごせる よう工夫している。また、家庭的雰囲気があり、 一人ひとりの希望に合った居場所も確保されて いる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、渡り廊下など利用者同士や職員も含 め、集いやすい環境を工夫している。 時には一人で過ごせる空間もあり、思い思いの 場所で過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人・ご家族様へ馴染みの物をお 持ち頂けるようお伝えしている。仏壇や写真・ ぬいぐるみなどを飾り、生活感のある居室作 りを行っている。家具の配置も本人の身体状況 を勘案し、安全な環境整備に努めている。	居室には、仏壇や使い慣れた家具等が持ち込 まれていたり、手作りの作品や家族等の写真 が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけ、トイレも見やすいわか りやすい看板にして、混乱することなく自分で 行けるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	NPO法人ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホーム えがおの家 のど家		
所在地	勇払郡厚真町京町34-1		
自己評価作成日	平成27年10月19日	評価結果市町村受理日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600210-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のど家の開設5年が過ぎ、開設より入居している利用者様も5年が過ぎ、5歳年を取り、体力等も衰えてきており、ゆっくりとのんびりと一日を過ごして頂けるような支援を心がけ、職員全員が努力をしています。利用者様の笑顔が少しでも増えるよう、車椅子等を利用しながら外出行事等も出来るだけ実施するようにし、日々の生活とし食事時のむせ込み等の改善を考え毎食前に嚥下体操の必要性を説明しながら、嚥下体操を行っております。職員一人ひとりが介護の専門職としての自覚と責任を持ちケアの資質向上の為に研修等に参加する為に、施設出張型の口腔ケア研修会をホームで開催し、個々のレベルアップに繋げるよう事業所も努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	えがおの家、基本理念とケア理念を玄関・ケアステーション・休憩室の目に付く所に提示し、採用時研修や月2回の会議において適宜確認し、日常的な啓発に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや町内の行事には利用様に声をかけし、参加するよう努めている。ホームのイベント等にはポスター等貼り地域の方達にも参加して頂けるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度はまちなか交流館「しゃべーる」をオープンした。町内の中学校の職場体験の場の提供や町内在住の職員は「安心ネット」会員登録し地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域包括・近隣住民の方や商店の方に参加して頂き、利用者様の状況や活動報告等を行い情報交換が出来るよう年間6回の運営推進会議を開催し、サービスの向上の努力を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やホームの行事等にも出来るだけ参加して頂くよう声かけしながら、実情を把握して頂きながら地域包括支援センター等の職員との意見交換等で協力関係を築けるよう努力を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時研修や内部・外部研修を行い職員全員が理解し拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は職員体制と外部からの安全性も含め夜間時のみ行っており、夜間時以外はセンサーを活用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部の研修にて虐待防止等学ぶ機会を得、防止に努めている。職員自身の悩み等は管理者や職員同士に相談や意見交換をすることで利用者様等の理解を深め虐待に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において成年後見制度について学んではいるが現状では関わりを持つことはなく、全職員の理解は不十分と思われるが、成年後見制度の資料は各自保管している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・パンフレットにより十分な説明を行い、不安や疑問点には理解・納得を得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情・相談窓口」を玄関に提示し、日頃より利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを図りご家族様の訪問時等にはご意見やご不満を伺えるよう、都度改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議を開催し職員達が意見を出し合い業務改善に反映出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は業務内・業務外においてスタッフの状況を把握し職場環境・条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議時に、内部研修を行い、年間の外部研修予定に基づいた研修受講の他に研修案内の都度、希望者は資格修得の為の財政的支援を実施しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣のGHの催事においてお互いに入居者様と一緒に参加したり、地域での研修の受講等で同業者と馴染みになり、情報交換や意見交換が出来るよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを行うとともに今までの生活歴や本人の思考、趣味等可能な限り家族や入居前の担当ケアマネより情報を収集し本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族とご本人と一緒に見学して頂きホームの雰囲気や日々の生活の写真等を見て頂くなど不安な事や要望などに目を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や入居後に得たご本人や家族様の意向や要望を把握しながら、安心してサービスを受け入れられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩としての意見を聞きながら、自分ができる事と、出来るのにしない事、日々の生活の中で自分が家で行っていたことで出来ることを見極め、共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には近況報告を含めご本人の思いを伝え、家族様の意見を聞くなど家族様が話しやすい関係を築くよう努力し、行事等にも参加して頂けるようお知らせし入居者との絆を大切にする関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店への買い物同行。ご家族や友人の面会は自由に過ごして頂ける環境作りに努めている。馴染みの場所への外出希望は極力対応出来るよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の相性 好みを把握しトラブルを未然に防げる様に努め、相性の良い利用者様同志には心地良く過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の移住先迄訪問することはないが、家族様と会った時等に状況を伺っている。退居後でも入院されている方達のお見舞い等は個人的にも伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他、日々の関わりの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、聞き取った言動や様子は介護記録に記録し会議時、意見交換等で検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時の情報を活用している。日頃の会話より、利用者様の生活歴を把握するよう努力している。困難な時にはご家族からも聞くよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り・生活の記録・会議等での情報収集や意見交換の活用に努め、利用者様の変化や現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや気づきを会議等で検討し、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の記録にバイタル・水分・排泄等の記録や処置を行っている利用者の処置チェック表等の活用を行い、全職員が情報共有することが出来ているが、気づきの記録については不十分な点もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の状況を把握するよう努め、その時のニーズは何か理解出来るよう努め、職員の共通認識のもとで柔軟な対応が出来るよう努めたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事参加の声かけを行い、皆で楽しむ事が出来るよう努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入居前からの主治医であり家族様の同意の上、かかりつけ医の受診に同行している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から週2回看護師の訪問があり身体状況・体調変化などを相談しながら、受診の必要性や対応等を検討している。昼夜間の緊急時は電話連絡にて対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合の医療機関への情報提供や入院の状況や退院についての話し合い、早期退院に向け情報交換の関係づくりを行っている。医療機関より問い合わせがあった時には速やかに情報の提供が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約説明時に「重度化した場合の看取り指針」の説明を行っている。昨年に行った看取りでは家族様との話し合いを密に行い、ホームで出来ることすべてを、家族とスタッフが話し合い、共有した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはいつでも回覧出来るようになっている。会議や研修等を利用しながら、全職員がAEDの操作方法などを周知出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1～2回の火災訓練とAEDの訓練を行っており、全職員が連絡体制等を確認しているが今後も定期的な研修を行っていきたい。協力体制とし、隣人に緊急時の応援をお願いしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格と尊厳を損なわないよう常に注意しながら声かけを行うよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様が思いを表しやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースに合わせてその日の体調や気分配慮し、言葉使いにも注意しながら入浴や外出の希望に沿えるよう心がけているがケアが重複する時にはスタッフの都合を優先する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の尊厳を守りながら、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るような声かけやお手伝いを心がけている。男性の髭剃りの声かけ・介助に気をつけ、服選び等の話題や会話をおしつけにならないよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と自家栽培の収穫を行いながら献立、準備調理補助や方付けなど一緒に行っている。行事や外出以外でもホーム外のテーブルに食事を運びいつもと違う雰囲気作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューが重ならないようにしながら個々の記録表に食量・水分量など記入、全職員が把握できる。自然排便を目標に食物繊維や麦飯の摂種・主食の量の統一。アレルギーや好き嫌いの方には食材の変更を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している入居者への声かけ・見守りと介助が必要な入居者への声かけ・介助を毎食後行っている。ほぼ全員舌ブラシのケアも行えている。夜間は全員義歯を預かり義歯洗浄剤にて洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握でその方に合ったRパンやパットの検討を行い、出来るだけトイレでの排泄を継続出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤を使わず自然排便を目指し食物繊維の多い食品や麦飯の継続、水分量等の把握しながらの献立の工夫は継続しているが、薬剤での調整が必要な方もおり、排便管理表を確認しながら看護師との連携を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	毎日午前・午後と入浴出来るため本人の希望に合わせ、無理強いすることなく清潔が保てるよう努めている。拒否が強い方にもタイミングを見ながらの声かけを行い入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣の把握でその時の体調や希望により、自由に休めるよう支援している。各居室の温度等の環境整備にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルの作成により個々の服薬内容・目的・副作用などの把握。薬の変更時の記録・申し送りでの連携を行う。服薬時の誤配・誤薬のないよう、スタッフ全員で確認を行い、自分で飲める方でも飲み込むまでの確認を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事担当スタッフを決め、行事レクで楽しんで頂き、自分で出来ることは自分でして頂くようにし以前と変わらない生活が出来るよう心がけ、入居者様との交流を深め、気分転換等が出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩や花見・紅葉見学・外食等の外出機会を設けている。個人の買い物希望時には個別に同行を行っているが、希望の回数は減ってきている。個人の町外の外出等は家族の協力を頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の同意の上お金の所持をしている利用者は数名おり、買い物時に同行し自身での支払いの見守り、財布の保管場所が分からなくなった時には一緒に探している。高額な買い物希望時には家族へ連絡し確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ自由に電話を使えるようになっている。希望時には職員が手だすけを行っている。毎年行っている、家族宛の年賀状作りを今年も予定している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間、各居室の湿度・温度の管理については湿温度計で確認し快適に過ごせるよう配慮している。季節感が感じられるよう共用空間のディスプレイに気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・離れ・渡り廊下などにはソファを置き、独りで過ごしたり、気の合った利用者様同志が心地よく過ごせるように工夫している、移動時にも声かけを行うようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の事前面接には出来る限り、自分で使っていた家具や馴染みのある物の持ち込みをお願いしており、自分に馴染みのある物で少しでも安心した生活環境で過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口には個々の表札があり、馴染みのある物や手作りの作品等を掲げ、トイレや浴室には暖簾やカーテン等を掲げるなど一人でも分るよう配慮を行っている。		

目標達成計画

事業所名グループホーム えがおの家

作成日：平成 27年 11月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	38 48	利用者の関わり方にばらつきがある。 個々に合わせた毎日の役割や楽しみごとが充分に出来ていない	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に目を配り、表情を読み取り積極的に関わりを持つ。 ・日々の暮らしを充実して過ごすことが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務優先にせず一日の中で必ず全員とかかわりを持つ ・退屈や孤独をあげあわせ無いよう活動内容を考える ・一人一人の能力や残存機能を考え、日課や役割を持つてもらう。 	1年
2	37	毎食事前に嚥下体操を行っているが、声かけに応じてもらえない利用者様もいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの利用者様に嚥下体操をして頂く。 ・意欲的に体操をして頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下体操の必要性を説明する。 ・体操内容の工夫(分りやすい・楽しめる体操) 	1年
3	27	ケアに活かせる記録が出来ていない	全職員が状況把握でき、情報を共有出来る記録が書ける	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな事でも記録に残す ・状況を正しく理解し、誰が見ても場面がわかる記録にする ・個々に記録の書き方の再学習 	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。